

1. 連結財務諸表等

1 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	2015年度 (2016年3月31日)		2016年度 (2017年3月31日)		比較増減
	金 額	構成比	金 額	構成比	
(資産の部)		%		%	
現金及び預貯金	472,676	6.21	716,628	7.85	243,952
買現先勘定	77,998	1.02	54,999	0.60	△ 22,999
買入金銭債権	11,383	0.15	11,718	0.13	335
金銭の信託	114,769	1.51	104,422	1.14	△ 10,347
有価証券	5,093,467	66.92	5,861,575	64.18	768,107
貸付金	679,024	8.92	628,048	6.88	△ 50,976
有形固定資産	303,348	3.99	304,503	3.33	1,155
土地	145,182		143,904		
建物	125,698		124,696		
リース資産	3,395		3,287		
建設仮勘定	1,771		2,771		
その他の有形固定資産	27,300		29,843		
無形固定資産	87,616	1.15	415,758	4.55	328,141
ソフトウェア	7,946		11,343		
のれん	55,717		226,544		
その他の無形固定資産	23,952		177,870		
その他資産	769,074	10.10	1,034,187	11.32	265,113
退職給付に係る資産	177	0.00	190	0.00	12
繰延税金資産	7,200	0.09	7,331	0.08	131
貸倒引当金	△ 5,368	△ 0.07	△ 6,411	△ 0.07	△ 1,043
資産の部合計	7,611,370	100.00	9,132,953	100.00	1,521,583
(負債の部)					
保険契約準備金	5,387,157	70.78	5,917,793	64.80	530,635
支払備金	1,207,106		1,633,406		
責任準備金等	4,180,051		4,284,386		
社債	133,560	1.75	424,991	4.65	291,431
その他負債	531,519	6.98	941,907	10.31	410,387
退職給付に係る負債	120,004	1.58	129,612	1.42	9,608
役員退職慰労引当金	56	0.00	23	0.00	△ 32
賞与引当金	24,422	0.32	31,786	0.35	7,364
役員賞与引当金	88	0.00	171	0.00	83
特別法上の準備金	58,246	0.77	68,788	0.75	10,542
価格変動準備金	58,246		68,788		
繰延税金負債	27,871	0.37	68,472	0.75	40,600
負債の部合計	6,282,926	82.55	7,583,548	83.04	1,300,621
(純資産の部)					
株主資本					
資本金	70,000		70,000		
資本剰余金	66,826		42,939		
利益剰余金	351,357		460,048		
株主資本合計	488,184	6.41	572,987	6.27	84,803
その他の包括利益累計額					
その他有価証券評価差額金	858,563		912,550		
繰延ヘッジ損益	10,510		8,003		
為替換算調整勘定	△ 10,026		20,602		
退職給付に係る調整累計額	△ 24,844		△ 29,722		
その他の包括利益累計額合計	834,203	10.96	911,433	9.98	77,230
非支配株主持分	6,056	0.08	64,984	0.71	58,927
純資産の部合計	1,328,444	17.45	1,549,405	16.96	220,961
負債及び純資産の部合計	7,611,370	100.00	9,132,953	100.00	1,521,583

2 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)		2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)		比較増減
	金 額	百分比	金 額	百分比	
経常収益	2,942,881	100.00	2,982,076	100.00	39,194
保険引受収益	2,759,366	93.76	2,773,083	92.99	13,716
正味収入保険料	2,552,193		2,550,336		
収入積立保険料	120,312		131,617		
積立保険料等運用益	45,897		41,823		
生命保険料	4,001		6,549		
支払備金戻入額	4,762		—		
責任準備金等戻入額	30,721		41,405		
その他保険引受収益	1,477		1,350		
資産運用収益	166,956	5.67	192,807	6.47	25,850
利息及び配当金収入	124,416		132,724		
金銭の信託運用益	5,830		2,516		
売買目的有価証券運用益	3,195		5,574		
有価証券売却益	66,532		84,863		
有価証券償還益	429		45		
金融派生商品収益	5,211		—		
その他運用収益	7,239		8,907		
積立保険料等運用益振替	△45,897		△41,823		
その他経常収益	16,558	0.56	16,184	0.54	△373
持分法による投資利益	270		398		
その他の経常収益	16,287		15,786		
経常費用	2,731,307	92.81	2,739,837	91.88	8,530
保険引受費用	2,301,151	78.19	2,271,673	76.18	△29,478
正味支払保険金	1,461,666		1,427,726		
損害調査費	134,277		136,735		
諸手数料及び集金費	451,515		443,178		
満期返戻金	244,766		226,431		
契約者配当金	79		87		
生命保険金等	2,152		3,896		
支払備金繰入額	—		27,403		
その他保険引受費用	6,692		6,213		
資産運用費用	19,917	0.68	36,908	1.24	16,991
金銭の信託運用損	156		198		
有価証券売却損	1,784		13,162		
有価証券評価損	11,537		1,700		
有価証券償還損	90		315		
金融派生商品費用	—		16,893		
その他運用費用	6,348		4,637		
営業費及び一般管理費	401,757	13.65	417,494	14.00	15,737
その他経常費用	8,480	0.29	13,761	0.46	5,280
支払利息	4,972		6,510		
貸倒引当金繰入額	224		107		
貸倒損失	24		116		
その他の経常費用	3,258		7,027		
経常利益	211,574	7.19	242,238	8.12	30,664
特別利益	12,967	0.44	9,311	0.31	△3,655
固定資産処分益	12,967		9,311		
特別損失	19,143	0.65	17,706	0.59	△1,436
固定資産処分損	4,656		6,955		
減損損失	—		209		
特別法上の準備金繰入額	8,046		10,542		
価格変動準備金繰入額	8,046		10,542		
その他特別損失	6,439		—		
税金等調整前当期純利益	205,398	6.98	233,843	7.84	28,444
法人税及び住民税等	10,785		50,999		
法人税等調整額	38,868		11,638		
法人税等合計	49,654	1.69	62,638	2.10	12,984
当期純利益	155,744	5.29	171,204	5.74	15,460
非支配株主に帰属する当期純利益	681	0.02	414	0.01	△267
親会社株主に帰属する当期純利益	155,062	5.27	170,790	5.73	15,727

連結包括利益計算書

(単位:百万円)

科 目	連結会計年度	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
		金 額	金 額
当期純利益		155,744	171,204
その他の包括利益			
その他有価証券評価差額金		△249,299	54,003
繰延ヘッジ損益		2,425	△2,507
為替換算調整勘定		△34,835	30,176
退職給付に係る調整額		△21,379	△4,877
持分法適用会社に対する持分相当額		△200	30
その他の包括利益合計		△303,290	76,826
包括利益		△147,545	248,030
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益		△146,919	248,020
非支配株主に係る包括利益		△626	10

3 連結株主資本等変動計算書

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額					非支配株主 持 分	純資産 合 計
	資本金	資 本 剰余金	利 益 剰余金	株主資本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	為 替 換 算 調 整 勘 定	退 職 給 付 に 係 る 調 整 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
当期首残高	70,000	121,180	297,472	488,653	1,107,710	8,085	23,984	△3,456	1,136,324	6,674	1,631,653
会計方針の変更による 累積的影響額		△27,041	23,833	△3,207			△139		△139	1	△3,346
会計方針の変更を反映 した当期首残高	70,000	94,139	321,306	485,446	1,107,710	8,085	23,844	△3,456	1,136,184	6,675	1,628,306
当期変動額											
剰余金の配当		△27,302	△124,500	△151,802							△151,802
親会社株主に帰属する 当期純利益			155,062	155,062							155,062
連結範囲の変動			△511	△511							△511
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動		△9		△9							△9
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					△249,147	2,425	△33,871	△21,387	△301,981	△619	△302,601
当期変動額合計	—	△27,312	30,051	2,738	△249,147	2,425	△33,871	△21,387	△301,981	△619	△299,862
当期末残高	70,000	66,826	351,357	488,184	858,563	10,510	△10,026	△24,844	834,203	6,056	1,328,444

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額					非支配株主 持 分	純資産 合 計
	資本金	資 本 剰余金	利 益 剰余金	株主資本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	為 替 換 算 調 整 勘 定	退 職 給 付 に 係 る 調 整 額	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計		
当期首残高	70,000	66,826	351,357	488,184	858,563	10,510	△10,026	△24,844	834,203	6,056	1,328,444
当期変動額											
剰余金の配当		△23,878	△62,100	△85,978							△85,978
親会社株主に帰属する 当期純利益			170,790	170,790							170,790
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動		△9		△9							△9
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)					53,987	△2,507	30,629	△4,878	77,230	58,927	136,158
当期変動額合計	—	△23,887	108,690	84,803	53,987	△2,507	30,629	△4,878	77,230	58,927	220,961
当期末残高	70,000	42,939	460,048	572,987	912,550	8,003	20,602	△29,722	911,433	64,984	1,549,405

4 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	連結会計年度	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)	比較増減
		金 額	金 額	
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前当期純利益		205,398	233,843	28,444
減価償却費		19,401	19,711	309
減損損失		—	209	209
のれん償却額		3,478	3,491	12
支払備金の増減額(△は減少)		3,890	17,602	13,711
責任準備金等の増減額(△は減少)		△ 30,917	△ 41,910	△ 10,992
貸倒引当金の増減額(△は減少)		73	92	19
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)		△ 3,533	2,844	6,378
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)		4	△ 32	△ 36
賞与引当金の増減額(△は減少)		1,490	△ 153	△ 1,644
役員賞与引当金の増減額(△は減少)		△ 21	83	104
価格変動準備金の増減額(△は減少)		8,046	10,542	2,495
利息及び配当金収入		△ 124,416	△ 132,724	△ 8,307
有価証券関係損益(△は益)		△ 53,549	△ 69,729	△ 16,180
支払利息		4,972	6,510	1,538
為替差損益(△は益)		△ 9,668	△ 8,611	1,056
有形固定資産関係損益(△は益)		△ 8,311	△ 7,474	837
貸付金関係損益(△は益)		9	—	△ 9
持分法による投資損益(△は益)		△ 270	△ 398	△ 128
その他資産(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額(△は増加)		△ 20,529	△ 19,730	799
その他負債(除く投資活動関連、財務活動関連)の増減額(△は減少)		6,367	15,887	9,520
その他		△ 1,985	30,741	32,726
小計		△ 69	60,796	60,866
利息及び配当金の受取額		125,515	132,400	6,884
利息の支払額		△ 4,254	△ 5,104	△ 850
法人税等の支払額		△ 9,452	△ 10,215	△ 763
営業活動によるキャッシュ・フロー		111,739	177,875	66,136
投資活動によるキャッシュ・フロー				
預貯金の純増減額(△は増加)		△ 7,701	△ 35,381	△ 27,680
買入金銭債権の売却・償還による収入		2,866	3,410	543
金銭の信託の増加による支出		△ 17,690	△ 16,737	953
金銭の信託の減少による収入		3,804	33,185	29,381
有価証券の取得による支出		△ 740,100	△ 984,093	△ 243,993
有価証券の売却・償還による収入		816,107	1,205,315	389,207
貸付けによる支出		△ 278,921	△ 230,186	48,735
貸付金の回収による収入		177,838	276,097	98,259
その他		△ 1,779	41,957	43,737
資産運用活動計		△ 45,576	293,568	339,145
営業活動及び資産運用活動計		66,162	471,444	405,281
有形固定資産の取得による支出		△ 15,146	△ 14,483	662
有形固定資産の売却による収入		23,107	11,945	△ 11,162
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出		—	△ 549,226	△ 549,226
その他		△ 17,340	△ 28,970	△ 11,630
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 54,954	△ 287,167	△ 232,212
財務活動によるキャッシュ・フロー				
社債の発行による収入		—	200,000	200,000
社債の償還による支出		△ 2,293	—	2,293
債券貸借取引受入担保金の純増減額(△は減少)		—	250,063	250,063
配当金の支払額		△ 47,900	△ 149,500	△ 101,600
非支配株主への配当金の支払額		—	△ 1	△ 1
その他		△ 2,524	△ 8,513	△ 5,989
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 52,717	292,047	344,765
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 9,222	△ 5,689	3,532
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△ 5,155	177,066	182,222
現金及び現金同等物の期首残高		503,803	499,118	△ 4,685
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		470	—	△ 470
現金及び現金同等物の期末残高		499,118	676,184	177,066

5 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社数 113社

主要な会社名

セゾン自動車火災保険株式会社
そんぼ24損害保険株式会社
損保ジャパン日本興亜保険サービス株式会社
損保ジャパン日本興亜DC証券株式会社
Sompo America Holdings Inc.
Sompo America Insurance Company
Sompo International Holdings Ltd.
Endurance Specialty Holdings Ltd.
Endurance Specialty Insurance Ltd.
Endurance U.S. Holdings Corporation
Endurance Worldwide Holdings Limited
Endurance Worldwide Insurance Limited
Sompo Canopus AG
Canopus Managing Agents Limited
Sompo Japan Canopus Reinsurance AG
Canopus US Insurance, Inc.
Sompo Japan Nipponkoa Insurance Company of Europe Limited
Sompo Japan Sigorta Anonim Sirketi
Sompo Holdings (Asia) Pte. Ltd.
Sompo Insurance Singapore Pte. Ltd.
Berjaya Sompo Insurance Berhad
Sompo Japan Nipponkoa Insurance (China) Co., Ltd.
NIPPONKOA Insurance Company (China) Limited
Sompo Insurance (Hong Kong) Company Limited
Sompo Seguros S.A.
Sompo Saude Seguros S.A.

Sompo International Holdings Ltd.は、新たに子会社となったため、当連結会計年度から連結の範囲に含めております。Endurance Specialty Holdings Ltd.およびその傘下の33社は、株式の取得により子会社となったため、当連結会計年度から連結の範囲に含めております。

NIPPONKOA Management Services (Europe) Limitedは、2017年3月8日付で清算したため、当連結会計年度から連結の範囲より除外しております。

なお、Sompo America Insurance Companyは、Sompo Japan Insurance Company of Americaが2017年1月1日付で、Sompo Holdings (Asia) Pte. Ltd.は、Sompo Japan Nipponkoa Holdings (Asia) Pte. Ltd.が2016年4月1日付で、Sompo Insurance Singapore Pte. Ltd.は、Tenet Sompo Insurance Pte. Ltd.が2016年5月1日付で、Sompo Insurance (Hong Kong) Company Limitedは、Sompo Japan Nipponkoa Insurance (Hong Kong) Company Limitedが2016年9月1日付で、Sompo Seguros S.A.は、Yasuda Maritima Seguros S.A.が2016年7月1日付で、Sompo Saude Seguros S.A.は、Yasuda Maritima Saude Seguros S.A.が2016年7月1日付で、それぞれ社名変更したものであります。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な会社名

Sompo Insurance (Thailand) Public Company Limited
Sompo Japan Nipponkoa Reinsurance Company Limited

非連結子会社は、総資産、経常収益、当期純損益(持分に見合う額)および利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、いずれも企業集団の財政状態および経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいため、連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

- (1) 持分法適用の関連会社数 4社
 主要な会社名
 日立キャピタル損害保険株式会社
 Universal Sompo General Insurance Company Limited
- (2) 持分法を適用していない非連結子会社および関連会社 (Sompo Insurance (Thailand) Public Company Limited、Sompo Japan Nipponkoa Reinsurance Company Limited 他) は、当期純損益 (持分に見合う額) および利益剰余金 (持分に見合う額) 等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。
- (3) 当社は、日本地震再保険株式会社の議決権の26.6%を所有しておりますが、同社事業の公共性を踏まえ、同社の財務および営業または事業の方針の決定に対して重要な影響を与えることができないと判断されることから、関連会社から除いております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

在外連結子会社の決算日はいずれも12月31日ですが、決算日の差異が3か月を超えていないため、本連結財務諸表の作成にあたっては、連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用しております。
 なお、連結決算日との差異期間における重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

- (1) 有価証券の評価基準および評価方法
- ① 売買目的有価証券の評価は、時価法によっております。
 なお、売却原価の算定は移動平均法によっております。
 - ② 満期保有目的の債券の評価は、移動平均法に基づく償却原価法によっております。
 - ③ 持分法を適用していない非連結子会社株式および関連会社株式の評価は、移動平均法に基づく原価法によっております。
 - ④ その他有価証券 (時価を把握することが極めて困難と認められるものを除く。) の評価は、期末日の市場価格等に基づく時価法によっております。
 なお、評価差額は全部純資産直入法により処理し、また、売却原価の算定は移動平均法によっております。
 - ⑤ その他有価証券のうち時価を把握することが極めて困難と認められるものの評価は、移動平均法に基づく原価法によっております。
 - ⑥ 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法によっております。
 - ⑦ 運用目的および満期保有目的のいずれにも該当しない有価証券の保有を目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、その他有価証券と同じ方法によっております。
- (2) デリバティブ取引の評価基準および評価方法
 デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。
- (3) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
- ① 有形固定資産 (リース資産を除く)
 当社および国内連結子会社の保有する有形固定資産 (リース資産を除く) の減価償却は、定率法によっております。
 ただし、1998年4月1日以降に取得した建物ならびに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法によっております。
 在外連結子会社の保有する有形固定資産 (リース資産を除く) の減価償却は、主に定額法によっております。
 (会計方針の変更)
 法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日) を当連結会計年度に適用し、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。
 この変更による当連結会計年度の経常利益および税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。
 - ② 無形固定資産
 海外子会社の買収により取得した無形固定資産については、その効果が及ぶと見積もられる期間にわたり、効果の発現する態様にしたがって償却しております。
 連結子会社の保有する自社利用ソフトウェアの減価償却は、利用可能期間に基づく定額法によっております。

(4) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

当社および国内保険連結子会社は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、資産の自己査定基準および償却・引当基準に基づき、次のとおり計上しております。

破産、特別清算、手形交換所における取引停止処分等、法的・形式的に経営破綻の事実が発生している債務者に対する債権および実質的に経営破綻に陥っている債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額等を控除し、その残額を引き当てております。

今後、経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に対する債権については、債権額から担保の処分可能見込額および保証による回収が可能と認められる額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を引き当てております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率等を債権額に乗じた額を引き当てております。

また、すべての債権は資産の自己査定基準に基づき、各所管部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署等が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

その他の連結子会社は、主に個別の債権について回収可能性を検討し、貸倒見積額を計上しております。

② 役員退職慰労引当金

国内連結子会社は、役員の退職慰労金(年金を含む)の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。

③ 賞与引当金

従業員賞与に充てるため、期末における支給見込額を基準に計上しております。

④ 役員賞与引当金

役員賞与に充てるため、期末における支給見込額を基準に計上しております。

⑤ 価格変動準備金

当社および国内保険連結子会社は、株式等の価格変動による損失に備えるため、保険業法第115条の規定に基づき計上しております。

(5) 退職給付に係る会計処理の方法

① 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、主として給付算定式基準によっております。

② 数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、主として、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10~11年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。

また、過去勤務費用は、主として、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年~10年)による定額法により費用処理しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

金利変動に伴う貸付金および債券のキャッシュ・フロー変動リスクをヘッジする目的で実施する金利スワップ取引で、特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を適用しております。

「保険業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第26号)に基づく長期の保険契約等に係る金利変動リスクをヘッジする目的で実施する金利スワップ取引については、繰延ヘッジを適用しております。ヘッジ対象となる保険負債とヘッジ手段である金利スワップ取引を一定の残存期間ごとにグルーピングのうえヘッジ指定を行っており、ヘッジに高い有効性があるため、ヘッジ有効性の評価を省略しております。

また、保有する株式に係る将来の株価変動リスクをヘッジする目的で行う株式スワップ取引については時価ヘッジを適用しております。

また、為替変動に伴う外貨建資産等の為替変動リスクをヘッジする目的で実施する為替予約取引、通貨オプション取引および通貨スワップ取引については原則として時価ヘッジを、振当処理の要件を満たしている場合には振当処理を適用しております。外貨建予定取引の円貨建キャッシュ・フローを固定する目的で実施している為替予約取引の一部については、繰延ヘッジを適用しております。当社が発行する外貨建社債に係る為替変動リスクをヘッジする目的で実施する通貨スワップ取引については振当処理を適用しております。

なお、ヘッジ有効性については、原則としてヘッジ開始時から有効性判定時点までの期間において、ヘッジ対象の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動またはキャッシュ・フロー変動の累計とを定期的に比

較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

ただし、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件が同一でありヘッジに高い有効性があることが明らかなもの、金利スワップの特例処理の適用要件を満たすものおよび振当処理の適用要件を満たすものについては、ヘッジ有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法および償却期間

のれんについては、発生年度以後10～20年間で均等償却しております。

ただし、少額のものについては一括償却しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から満期日または償還日までの期間が3か月以内の定期預金等の短期投資からなっております。

(9) 消費税等の会計処理

当社および国内連結子会社の消費税等の会計処理は、主として税抜方式によっております。

ただし、当社および国内保険連結子会社の損害調査費、営業費及び一般管理費等の費用は税込方式によっております。

なお、資産に係る控除対象外消費税等はその他資産に計上し、5年間で均等償却しております。

6 追加情報

繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当連結会計年度から適用しております。

7 連結貸借対照表関係

1. 有形固定資産の減価償却累計額は次のとおりであります。

(単位:百万円)

2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
394,856	395,145

2. 有形固定資産の圧縮記帳額は次のとおりであります。

(単位:百万円)

2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
19,188	18,835

3. 非連結子会社および関連会社の株式等は次のとおりであります。

(単位:百万円)

	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
有価証券(株式)	21,482	22,302
有価証券(出資金)	2,881	2,444

4. 貸付金のうち破綻先債権等の金額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
破綻先債権額	50	48
延滞債権額	404	419
3カ月以上延滞債権額	10	13
貸付条件緩和債権額	—	—
合計	465	480

(注) 破綻先債権とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という。)のうち、「法人税法施行令」(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまで(貸倒引当金勘定への繰入限度額)に掲げる事由または同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。

延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。

3カ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸付金で破綻先債権および延滞債権に該当しないものであります。貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破綻先債権、延滞債権および3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

5. 担保に供している資産および担保付債務は次のとおりであります。

担保に供している資産

(単位：百万円)

	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
預貯金	25,396	77,562
買入金銭債権	—	1,723
有価証券	260,588	733,801
有形固定資産	2,694	2,601
合計	288,679	815,689

(注) 上記は、借入等の担保のほか、海外営業のための供託資産として差し入れている有価証券等であります。

また、2015年度において、上記以外に関係会社株式2,794百万円を担保に供しておりますが、連結上全額消去しております。

担保付債務

(単位：百万円)

	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
その他負債 (債券貸借取引受入担保金)	—	250,063
その他負債(借入金)	592	444
合計	592	250,508

なお、上記有価証券には、現金担保付有価証券貸借取引により差し入れた有価証券が含まれており、その金額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
—	237,232

6. 有価証券のうち消費貸借契約により貸し付けているものの金額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
81,948	303,227

7. デリバティブ取引に係る担保として受け入れている有価証券のうち、売却または再担保という方法で自由に処分できる権利を有するものは次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
処分せずに自己保有している有価証券	39,724	22,320

8. 貸出コミットメント契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

(単位：百万円)

2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
9,189	11,555

8 連結損益計算書関係

1. 事業費の主な内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
代理店手数料等	444,357	445,519
給与	202,712	199,610

(注) 事業費は連結損益計算書における損害調査費、営業費及び一般管理費ならびに諸手数料及び集金費の合計であります。

2. その他特別損失に含まれている重要なものは次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
ライフプラン支援特別措置に係る特別加算金等	6,439	—

9 連結包括利益計算書関係

その他の包括利益に係る組替調整額および税効果額

(単位：百万円)

	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△294,107	155,490
組替調整額	△66,596	△84,437
税効果調整前	△360,703	71,052
税効果額	111,403	△17,048
その他有価証券評価差額金	△249,299	54,003
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	4,742	14,186
組替調整額	△1,572	△4,213
資産の取得原価調整額	70	△13,463
税効果調整前	3,241	△3,490
税効果額	△816	982
繰延ヘッジ損益	2,425	△2,507
為替換算調整勘定		
当期発生額	△34,974	30,176
税効果額	139	—
為替換算調整勘定	△34,835	30,176
退職給付に係る調整額		
当期発生額	△29,880	△9,518
組替調整額	317	2,750
税効果調整前	△29,562	△6,768
税効果額	8,183	1,891
退職給付に係る調整額	△21,379	△4,877
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	△176	123
組替調整額	△23	△92
持分法適用会社に対する持分相当額	△200	30
その他の包括利益合計	△303,290	76,826

10 連結株主資本等変動計算書関係

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	2015年度期首 株式数(千株)	2015年度 増加株式数(千株)	2015年度 減少株式数(千株)	2015年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	984,055	—	—	984,055
合計	984,055	—	—	984,055

(注) 自己株式については、該当事項はありません。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2016年3月25日 取締役会	普通株式	149,500	151.92	—	2016年3月31日

(決議)	株式の種類	配当財産の種類 および帳簿価額(百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	
2016年3月4日 取締役会	普通株式	株式会社メッセージ 普通株式	2,302	2.34	—	2016年3月31日

- (2) 基準日が2015年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が2016年度となるもの
該当事項はありません。

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	2016年度期首 株式数(千株)	2016年度 増加株式数(千株)	2016年度 減少株式数(千株)	2016年度末 株式数(千株)
発行済株式 普通株式	984,055	—	—	984,055
合計	984,055	—	—	984,055

(注) 自己株式については、該当事項はありません。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年3月28日 取締役会	普通株式	85,901	87.29	—	2017年3月31日

(決議)	株式の種類	配当財産の種類 および帳簿価額(百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	
2016年3月4日 取締役会	普通株式	損保ジャパン日本興亜 リスクマネジメント株式会社 普通株式	76	0.07	—	2016年4月1日

- (2) 基準日が2016年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が2017年度となるもの
該当事項はありません。

11 連結キャッシュ・フロー計算書関係

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(単位：百万円)

	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
現金及び預貯金	472,676	716,628
買現先勘定	77,998	54,999
有価証券	5,093,467	5,861,575
預入期間が3か月を超える預貯金	△81,652	△117,215
現金同等物以外の有価証券	△5,063,372	△5,839,802
現金及び現金同等物	499,118	676,184

2. 当連結会計年度にEndurance Specialty Holdings Ltd.を連結したことに伴う連結開始時の資産および負債の主な内訳ならびに同社株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

(単位：百万円)

資産	1,457,267
(うち有価証券)	(903,739)
のれん	176,307
負債	△842,071
(うち保険契約準備金)	(△568,765)
為替換算調整勘定	△49,434
非支配株主持分	△58,928
上記子会社株式の取得価額	683,139
上記子会社の現金及び現金同等物	△133,913
差引：上記子会社取得のための支出	549,226

3. 重要な非資金取引の内容

該当事項はありません。

4. 投資活動によるキャッシュ・フローには、保険事業に係る資産運用業務から生じるキャッシュ・フローを含んでおります。

12 リース取引関係

オペレーティング・リース取引

(単位：百万円)

連結会計年度 区分	2012年度 (2013年3月31日)	2013年度 (2014年3月31日)	2014年度 (2015年3月31日)	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
未経過リース料					
借主側					
1年内	722	745	1,897	2,042	3,913
1年超	1,902	1,722	3,979	4,840	11,654
合計	2,625	2,467	5,876	6,882	15,568
貸主側					
1年内	1,401	632	633	487	515
1年超	4,281	3,658	2,964	2,241	1,744
合計	5,682	4,291	3,598	2,728	2,260

13 退職給付関係

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出年金制度のほか、確定給付型の制度として、退職一時金制度ならびに既年金受給者および受給待期者を対象とする規約型企業年金制度および自社運営の退職年金制度を設けております。また、退職給付信託の設定を行っております。国内連結子会社では、確定拠出年金制度のほか、確定給付型の制度として非積立型の退職一時金制度を設けております。一部の在外連結子会社は、確定拠出型および確定給付型の退職給付制度を設けております。

なお、一部の退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

項目	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
退職給付債務の期首残高	197,257	213,566
勤務費用	10,346	10,818
利息費用	1,654	795
数理計算上の差異の発生額	21,319	10,786
退職給付の支払額	△17,227	△13,125
過去勤務費用の発生額	1,084	—
その他	△868	△712
退職給付債務の期末残高	213,566	222,128

(注) 簡便法により計算した退職給付費用を「勤務費用」に計上しております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

項目	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
年金資産の期首残高	103,804	94,288
期待運用収益	701	765
数理計算上の差異の発生額	△7,330	795
事業主からの拠出額	357	295
退職給付の支払額	△2,280	△2,269
その他	△963	△689
年金資産の期末残高	94,288	93,186

(3) 退職給付債務および年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

(単位：百万円)

項目	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
積立型制度の退職給付債務	208,447	217,709
年金資産	△94,288	△93,186
非積立型制度の退職給付債務	114,158	124,523
アセット・シーリングによる調整額	5,119	4,418
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	548	480
退職給付に係る負債	119,826	129,422
退職給付に係る資産	△120,004	△129,612
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	△177	△190
退職給付に係る負債と資産の純額	119,826	129,422

(4) 退職給付費用およびその内訳項目の金額

(単位：百万円)

項目	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
勤務費用	10,346	10,818
利息費用	1,654	795
期待運用収益	△701	△765
数理計算上の差異の費用処理額	382	3,068
過去勤務費用の費用処理額	6	6
その他	21	62
確定給付制度に係る退職給付費用	11,709	13,985

(注) 1. 簡便法により計算した退職給付費用を「勤務費用」に計上しております。

2. 当社は、2015年度において、上記退職給付費用以外にライフプラン支援特別措置に係る特別加算金6,320百万円をその他特別損失に計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

項目	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
過去勤務費用	1,078	△6
数理計算上の差異	28,484	6,774
合計	29,562	6,768

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

項目	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
未認識過去勤務費用	657	650
未認識数理計算上の差異	33,740	40,503
合計	34,397	41,154

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は次のとおりであります。

(単位：%)

項目	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
債券	11	18
株式	62	62
共同運用資産	11	8
生命保険一般勘定	4	3
現金および預金	5	0
その他	7	9
合計	100	100

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在および予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在および将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎は次のとおりであります。

(単位：%)

項目		2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
割引率	当社	0.2	0.3
	在外連結子会社	3.7～13.2	1.2～11.7
長期期待運用収益率	当社	0.0～1.5	0.0～1.5
	在外連結子会社	3.8～13.2	2.6～11.7

3. 確定拠出制度

当社および連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度5,319百万円、当連結会計年度4,927百万円であります。

14 税効果会計関係

1. 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：百万円)

区分	連結会計年度	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
繰延税金資産			
責任準備金等		163,986	163,013
退職給付に係る負債		33,583	36,192
支払備金		34,750	34,594
財産評価損		33,990	33,223
税務上繰越欠損金		26,584	29,160
税務上無形固定資産		27,817	28,402
その他		46,677	56,119
繰延税金資産小計		367,391	380,706
評価性引当額		△58,763	△68,864
繰延税金資産合計		308,627	311,841
繰延税金負債			
その他有価証券評価差額金		△318,469	△335,272
その他		△10,829	△37,709
繰延税金負債合計		△329,298	△372,981
繰延税金負債の純額		△20,670	△61,140

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

(単位：%)

区分	連結会計年度	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
国内の法定実効税率		28.8	28.2
(調整)			
受取配当金等の益金不算入額		△15.7	△3.0
交際費等の損金不算入額		0.5	0.6
その他		10.6	1.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率		24.2	26.8

15 企業結合等関係

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称およびその事業の内容

Endurance Specialty Holdings Ltd. 海外保険事業

② 企業結合を行った主な理由

SOMPOホールディングスグループは、本件買収により、米国における強固な事業基盤を獲得します。これにより、海外保険事業はさらに地域分散の効いたポートフォリオとなり、グループ全体に占める海外保険事業からの収益比率は12%から27%と、事業ポートフォリオの分散が一層進むとともに、グループ経営の基盤強化が実現します。

③ 企業結合日

2017年3月28日

④ 企業結合の法的形式

バミューダの会社法に基づく逆三角合併による買収

⑤ 結合後企業の名称

Endurance Specialty Holdings Ltd.

⑥ 取得した議決権比率

100.0%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社がEndurance Specialty Holdings Ltd.の議決権の100.0%を取得し同社を支配するに至ったことによります。

(2) 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

当連結会計年度の連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価および対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	6,288百万米ドル
取得原価		6,288百万米ドル

(4) 主要な取得関連費用の内容および金額

アドバイザリー費用等 2,849百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法および償却期間

① 発生したのれん

1,513百万米ドル

② 発生原因

取得原価が受け入れた資産および引き受けた負債に配分された純額を上回ったことによります。

③ 償却方法および償却期間

10年間にわたる均等償却

(6) 企業結合日に受け入れた資産および引き受けた負債の額ならびにその主な内訳

資産合計	12,509百万米ドル
(うち有価証券)	7,758百万米ドル)
負債合計	7,228百万米ドル
(うち保険契約準備金)	4,882百万米ドル)

(7) 企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額およびその算定方法

正味収入保険料	276,073百万円
経常利益	18,524百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	19,684百万円

(概算額の算定方法)

企業結合が当連結会計年度の開始の日に完了したと仮定して算定された正味収入保険料、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益と、取得企業の連結損益計算書における正味収入保険料、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益との差額を、影響の概算額としております。また、企業結合時に認識されたのれんが当連結会計年度の開始の日に発生したものとし、償却額を算定しております。

なお、当該注記は監査証明を受けておりません。

16 セグメント情報等

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社ならびに子会社および関連会社は、親会社であるSOMPOホールディングス株式会社が定めるグループ経営基本方針・経営戦略等のもと、それぞれの事業における戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、当社ならびに個々の子会社および関連会社を最小単位とした事業別のセグメントから構成されており、「国内損害保険事業」および「海外保険事業」の2つを報告セグメントとしております。なお、報告セグメントに含まれていない確定拠出年金事業は「その他」の区分としております。

「国内損害保険事業」は、主として日本国内の損害保険引受業務、資産運用業務およびそれらに関連する業務を、「海外保険事業」は、主として海外の保険引受業務および資産運用業務をそれぞれ行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益または損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。報告セグメントの利益または損失は親会社株主に帰属する当期純利益をベースとした数値であります。

セグメント間の内部収益は、第三者間取引価格等に基づいております。

(減価償却方法の変更)

「5 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計方針に関する事項」に記載のとおり、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

当該変更が当連結会計年度のセグメント利益または損失に与える影響は軽微であります。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益または損失、資産その他の項目の金額に関する情報

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注2)	合計	調整額 (注3)	連結財務 諸表計上額 (注4)
	国内損害 保険事業	海外 保険事業	計				
売上高(注1)							
外部顧客への売上高	2,259,590	296,604	2,556,195	1,512	2,557,707	385,173	2,942,881
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	342	342	△342	—
計	2,259,590	296,604	2,556,195	1,855	2,558,050	384,831	2,942,881
セグメント利益または損失(△)	138,664	16,046	154,711	351	155,062	—	155,062
セグメント資産	6,728,084	880,665	7,608,750	2,620	7,611,370	—	7,611,370
その他の項目							
減価償却費	16,963	2,365	19,329	72	19,401	—	19,401
のれんの償却額	121	3,356	3,478	—	3,478	—	3,478
利息及び配当金収入	109,459	14,959	124,419	0	124,419	△2	124,416
支払利息	4,254	721	4,975	—	4,975	△2	4,972
持分法投資利益または損失(△)	65	204	270	—	270	—	270
特別利益(注5)	12,640	327	12,967	—	12,967	—	12,967
特別損失(注6)	19,116	21	19,138	4	19,143	—	19,143
税金費用	45,702	3,917	49,619	34	49,654	—	49,654
持分法適用会社への投資額	1,149	1,335	2,484	—	2,484	—	2,484
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	31,817	4,199	36,017	152	36,169	—	36,169

(注) 1. 売上高は、国内損害保険事業にあっては正味収入保険料、海外保険事業にあっては正味収入保険料および生命保険料、「その他」および連結財務諸表計上額にあっては経常収益の金額を記載しております。

2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、確定拠出年金事業であります。

3. 売上高の調整額は、正味収入保険料または生命保険料以外の国内損害保険事業および海外保険事業に係る経常収益385,173百万円、セグメント間取引消去△342百万円であります。

4. セグメント利益または損失は、連結損益計算書の親会社株主に帰属する当期純利益と調整を行っております。

5. 国内損害保険事業における特別利益は、固定資産処分益12,640百万円であります。

6. 国内損害保険事業における特別損失の主なもの、価格変動準備金繰入額8,046百万円およびライフプラン支援特別措置に係る特別加算金等6,439百万円あります。

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注2)	合 計	調整額 (注3)	連結財務 諸表計上額 (注4)
	国内損害 保険事業	海外 保険事業	計				
売上高(注1)							
外部顧客への売上高	2,212,230	344,655	2,556,886	1,700	2,558,586	423,489	2,982,076
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	246	246	△246	—
計	2,212,230	344,655	2,556,886	1,946	2,558,832	423,243	2,982,076
セグメント利益または損失(△)	157,743	12,833	170,577	212	170,790	—	170,790
セグメント資産	6,570,367	2,559,745	9,130,113	2,839	9,132,953	—	9,132,953
その他の項目							
減価償却費	16,135	3,467	19,603	107	19,711	—	19,711
のれんの償却額	154	3,336	3,491	—	3,491	—	3,491
利息及び配当金収入	113,975	18,750	132,725	0	132,725	△1	132,724
支払利息	5,330	1,181	6,512	—	6,512	△1	6,510
持分法投資利益または損失(△)	177	220	398	—	398	—	398
特別利益(注5)	9,257	53	9,311	—	9,311	—	9,311
特別損失(注6)	17,546	148	17,695	11	17,706	—	17,706
(減損損失)	(197)	(—)	(197)	(11)	(209)	(—)	(209)
税金費用	57,922	4,655	62,578	60	62,638	—	62,638
持分法適用会社への投資額	1,324	1,761	3,085	—	3,085	—	3,085
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	47,389	132,315	179,705	214	179,919	—	179,919

- (注) 1. 売上高は、国内損害保険事業にあっては正味収入保険料、海外保険事業にあっては正味収入保険料および生命保険料、「その他」および連結財務諸表計上額にあっては経常収益の金額を記載しております。
2. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、確定拠出年金事業であります。
3. 売上高の調整額は、正味収入保険料または生命保険料以外の国内損害保険事業および海外保険事業に係る経常収益423,489百万円、セグメント間取引消去△246百万円であります。
4. セグメント利益または損失は、連結損益計算書の親会社株主に帰属する当期純利益と調整を行っております。
5. 国内損害保険事業における特別利益は、固定資産処分益9,257百万円であります。
6. 国内損害保険事業における特別損失の主なもの、価格変動準備金繰入額10,542百万円および固定資産処分損6,807百万円であります。

(関連情報)

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

1. 製品およびサービスごとの情報

(単位:百万円)

	火災	海上	傷害	自動車	自動車損害 賠償責任	その他	合 計
正味収入保険料	407,817	85,905	194,287	1,197,795	307,233	359,154	2,552,193

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位:百万円)

日 本	海 外	合 計
2,159,332	396,863	2,556,195

- (注) 1. 売上高は正味収入保険料および生命保険料の合計を記載しております。
2. 主に顧客の所在地を基礎とした社内管理区分により、日本および海外に分類しております。

(2) 有形固定資産

連結貸借対照表の有形固定資産の金額に占める本邦に所在している有形固定資産の金額の割合が90%を超えているため、地域ごとの情報の記載を省略しております。

業績データ

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

1. 製品およびサービスごとの情報

(単位:百万円)

	火災	海上	傷害	自動車	自動車損害賠償責任	その他	合計
正味収入保険料	373,558	79,335	194,152	1,245,666	295,884	361,739	2,550,336

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位:百万円)

日本	海外	合計
2,123,685	433,200	2,556,886

(注) 1. 売上高は正味収入保険料および生命保険料の合計を記載しております。
2. 主に顧客の所在地を基礎とした社内管理区分により、日本および海外に分類しております。

(2) 有形固定資産

連結貸借対照表の有形固定資産の金額に占める本邦に所在している有形固定資産の金額の割合が90%を超えているため、地域ごとの情報の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

該当事項はありません。

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	国内損害保険事業	海外保険事業	計			
減損損失	197	—	197	11	—	209

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	国内損害保険事業	海外保険事業	計			
当期償却額	121	3,356	3,478	—	—	3,478
当期末残高	349	55,367	55,717	—	—	55,717

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	国内損害保険事業	海外保険事業	計			
当期償却額	154	3,336	3,491	—	—	3,491
当期末残高	389	226,154	226,544	—	—	226,544

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

(連結決算セグメント情報)

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

(単位:百万円)

	国内損害 保険事業	海外 保険事業	その他	計	消去	連結
経常収益						
外部顧客に対する経常収益	2,641,083	330,520	1,512	2,973,116	(30,235)	2,942,881
セグメント間の内部経常収益	284	286	342	913	(913)	—
計	2,641,367	330,806	1,855	2,974,029	(31,148)	2,942,881
経常利益	190,802	20,380	390	211,574	—	211,574
資産	6,728,084	880,665	2,620	7,611,370	—	7,611,370

(注) 外部顧客に対する経常収益の消去欄の金額のうち主なものは、海外保険事業セグメントに係る経常費用のうちの支払備金繰入額および責任準備金等繰入額を連結損益計算書上は経常収益のうちの支払備金戻入額および責任準備金等戻入額に含めて表示したことによる振替額であります。

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

(単位:百万円)

	国内損害 保険事業	海外 保険事業	その他	計	消去	連結
経常収益						
外部顧客に対する経常収益	2,632,714	377,706	1,700	3,012,121	(30,045)	2,982,076
セグメント間の内部経常収益	329	498	246	1,073	(1,073)	—
計	2,633,043	378,205	1,946	3,013,195	(31,119)	2,982,076
経常利益	223,926	18,027	284	242,238	—	242,238
資産	6,570,367	2,559,745	2,839	9,132,953	—	9,132,953

(注) 外部顧客に対する経常収益の消去欄の金額のうち主なものは、海外保険事業セグメントに係る経常費用のうちの責任準備金等繰入額を連結損益計算書上は経常収益のうちの責任準備金等戻入額に含めて表示したことによる振替額であります。

17 関連当事者情報

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社および主要株主(会社等の場合に限る。)等

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

種類	会社等の名称 または氏名	所在地	資本金または 出資金 (百万円)	事業の内容 または職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	損保ジャパン 日本興亜 ホールディングス 株式会社	東京都 新宿区	100,045	保険持株 会社	(被所有) 直接 100.0	経営管理 金銭貸借関係 役員の兼任	資金の貸付 利息の受取	122,400 33	貸付金 その他資産	107,100 25

(注) 1. 損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社は、2016年10月1日付で、SOMPOホールディングス株式会社に社名変更しております。

2. 取引条件および取引条件の決定方針等

主として期限一括返済方式によるものであり、利率は市場金利に基づき一般の取引条件と同様に決定しております。なお、担保は受け入れておりません。

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

記載すべき重要なものはありません。

2. 親会社または重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

SOMPOホールディングス株式会社(東京証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

18 1株当たり情報

	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
1株当たり純資産額	1,343円81銭	1,508円47銭
1株当たり当期純利益金額	157円57銭	173円55銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	2015年度 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	2016年度 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)
親会社株主に帰属する当期純利益金額(百万円)	155,062	170,790
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益金額(百万円)	155,062	170,790
普通株式の期中平均株式数(千株)	984,055	984,055

3. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	1,328,444	1,549,405
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)	6,056	64,984
(うち非支配株主持分(百万円))	(6,056)	(64,984)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	1,322,387	1,484,421
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(千株)	984,055	984,055

19 重要な後発事象

国内劣後特約付無担保社債(利払繰延条項付)の発行

当社は、以下のとおり、2017年4月26日に国内劣後特約付無担保社債(利払繰延条項付)を発行いたしました。

1 発行体	損害保険ジャパン日本興亜株式会社
2 社債の名称	第3回利払繰延条項・期限前償還条項付無担保社債(劣後特約付)
3 社債総額	1,000億円
4 各社債の金額	金1億円
5 払込金額	各社債の金額100円につき金100円
6 償還金額	各社債の金額100円につき金100円
7 償還期限	2077年4月26日(60年債) ただし、①2027年4月26日以降の各利息支払期日に、または②払込期日以降に資本事由、税制事由もしくは資本性変更事由が発生し、継続している場合に、監督当局の事前承認等を前提に任意償還可能。
8 利率	2017年4月26日の翌日から2027年4月26日まで：年1.06% 2027年4月26日の翌日以降：6ヶ月ユーロ円LIBOR + 1.81%
9 募集期間	2017年4月19日
10 払込期日	2017年4月26日
11 利払日	毎年4月26日および10月26日
12 優先順位	本社債は、発行体の清算手続等における債務の支払に関し、一般の債務に劣後し、発行体の最上位の優先株式(発行体が今後発行した場合)ならびに発行体が2013年に発行した既存の米ドル建劣後債および2016年に発行した既存の円建劣後債と実質的に同順位として扱われ、普通株式に優先する。
13 資金使途	債券レポ取引終了時の受入担保金の返済、有価証券投資等の長期的投資資金および運転資金
14 共同主幹事会社	みずほ証券株式会社 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 大和証券株式会社 野村證券株式会社 SMBC日興証券株式会社
15 引受会社	しんぎん証券株式会社
16 財務代理人	株式会社みずほ銀行
17 取得格付	AA- (株式会社日本格付研究所)
18 振替機関	株式会社証券保管振替機構

20 会計監査

1. 当社は、会社法第444条第4項の規定に基づき、2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)および2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)の連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書および連結注記表について、新日本有限責任監査法人による監査を受け、監査報告書を受領しています。
2. 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)および2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)の連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記および連結附属明細表について、新日本有限責任監査法人による監査を受け、監査報告書を受領しています。

21 リスク管理債権

(単位:百万円)

区 分	連結会計年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
破綻先債権額		56	30	70	50	48
延滞債権額		538	429	572	404	419
3カ月以上延滞債権額		—	—	15	10	13
貸付条件緩和債権額		231	4	60	—	—
合計		826	464	719	465	480

(注) 各債権の意義は次のとおりです。

1. 破綻先債権

破綻先債権とは、元本または利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本または利息の取立てまたは弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸付金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸付金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまで(貸倒引当金勘定への繰入限度額)に掲げる事由または同項第4号に規定する事由が生じている貸付金であります。

2. 延滞債権

延滞債権とは、未収利息不計上貸付金であって、破綻先債権および債務者の経営再建または支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸付金以外の貸付金であります。

3. 3カ月以上延滞債権

3カ月以上延滞債権とは、元本または利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸付金で、破綻先債権および延滞債権に該当しないものであります。

4. 貸付条件緩和債権

貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建または支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、破綻先債権、延滞債権および3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。

2. 有価証券等の情報

1 金融商品関係

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は「純資産価値の拡大を図るために、適切なリスク管理を講じながら、資産運用を行う」ことを基本方針として、保険会社の運用資金の性格をふまえ、安全性・流動性・収益性を総合的に検討しながら、リスク管理に十分留意した資産運用を行っております。株式・債券等への投資や融資などの伝統的な手法に加え、オルタナティブ投資など、国内外でリスクの分散と運用手法の多様化を図りつつ、中長期的な収益確保を目指しております。

また、積立保険のような長期の保険負債にかかわる資産運用を適切に行うため、ALM(資産・負債の総合管理)に基づく運用手法により、将来の満期返戻金などの支払いに向けた安定的な収益確保を図っております。

連結子会社では、運用する資産の規模・性格をふまえた上で、中長期的な収益獲得を目指す一方、資産の健全性を損なうことのないよう十分留意した上で、適切に資産運用を行っております。

なお、当社は、財務基盤を更に強固なものとする観点から、主要格付機関から一定の資本性が認められる劣後債(ハイブリッド・ファイナンス)の発行により、実質的な自己資本の増強を図っております。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

当社は、主に保険取引先企業との中長期的な友好関係の維持の観点などから、株式を多く保有しておりますが、株式は一般的に価格の変動性が高く、今後の株価の下落によっては、売却損・評価損計上による利益減少や、評価差額金の減少により純資産が減少するなど、価格変動リスクにさらされております。

資産運用リスクの分散を図るため、海外の債券や株式等への投資を行っており、各々の現地通貨における資産価値の変動リスクに加えて、為替レートの変動によっては、これらの資産の価値および投資収益に重要な影響を及ぼす可能性があり、為替変動リスクにさらされております。

債券、貸付金等の固定金利資産を保有していることから、金利が上昇した場合には資産価値が減少する可能性があり、金利変動リスクにさらされております。

債券、株式等の有価証券を保有していることから、市場の混乱等により市場において取引ができなかったり、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされるリスク(流動性リスク)にさらされております。

また、当社が保有している有価証券・貸付金等は、発行体・貸付先の信用力の低下や破綻等により、価値が減少する、あるいは利息や元本の回収が不能になるなど、信用リスクにさらされております。

連結子会社では、主に預金や国債等の債券を保有しており、信用リスクや金利変動リスクにさらされております。また、一部の連結子会社では株式または外貨建債券を保有しており、今後の株価の下落または為替レートの変動によっては、売却損・評価損計上による利益減少や、評価差額金の減少により純資産が減少するなど、価格変動リスクまたは為替変動リスクにさらされております。

当社が発行している劣後債については、発行から一定期間経過以降の利払いが変動金利となるため、金利変動リスクにさらされております。

当社および一部の連結子会社では、主として資産運用リスクをヘッジする目的で、デリバティブ取引を利用しており、また、ヘッジ目的以外にも、一定の取扱高の範囲内で運用収益を獲得する等の目的で、デリバティブ取引を利用しております。

当社グループでは主に以下のデリバティブ取引を行っております。

- ・通貨関連：為替予約取引、通貨スワップ取引、通貨オプション取引
- ・金利関連：金利スワップ取引、金利先物取引、金利オプション取引
- ・株式関連：株式スワップ取引、株価指数先物取引、株価指数オプション取引
- ・債券関連：債券先物取引、債券先物オプション取引、債券先渡取引
- ・その他：クレジットデリバティブ取引、天候デリバティブ取引、地震デリバティブ取引、インダストリー・ロス・ワラント取引、ロス・ディベロップメント・カバー取引等

これらは主に為替相場の変動によるリスク、市場金利の変動によるリスク、株価の変動によるリスク、債券価格の変動によるリスク、取引対象物の信用リスク等を有しておりますが、保有現物資産等に係る当該市場リスクを効果的に減殺しております。

なお、ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引については、「1. 連結財務諸表等 5 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4. 会計方針に関する事項 (6) 重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

当社および連結子会社は、取引対象物の価格変動に対する当該取引の時価の変動率が大きい取引(レバレッジ取引)を利用しておりません。

また、当社および一部の連結子会社は市場取引以外のデリバティブ取引を利用してありますが、これらは取引相手先の倒産等による契約不履行に係るリスク(信用リスク)を有しております。しかしながら、取引の相手先はいずれも国際的に優良な金融機関であり、当社は信用リスクを限定的であると認識しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社は、グループの企業価値の最大化を目的とする戦略的リスク経営(ERM)の観点から、リスクを適切に把握、評価、コントロールし、リスク発現の際に的確に対応できる態勢を次のとおり整備しております。

戦略的リスク経営を支えるため、当社およびグループ会社のリスクの状況を的確に把握し、各種リスクを統合して管理することなどを定めた「ERM基本方針」を制定しているほか、経営陣がリスクの状況を把握したうえで、適切な意思決定を行うために、統合的リスク管理委員会等を設置しております。また、経営に重大な影響を及ぼしうる各種リスクについてリスクを定性・定量の両面から評価し、適切にコントロールするリスク管理部門を定め、リスク管理態勢を整備・推進するための部署としてリスク管理部を設置しております。

当社は、資産運用リスクモデルにより、市場リスク、信用リスクおよび不動産投資リスクに加えて、積立保険などの保険負債について、資産運用利回りが予定利率を下回るリスクも含めて一元的に管理し、資産情報を日次で把握し、資産運用リスク量を計測しております。また、過去に発生した最大規模の市況下落やデフォルト率などを想定し、その影響度を測定するストレス・テストを行い、リスク管理に活用しております。

信用供与先の管理としては、個別取引ごとに厳正な与信審査を実施するとともに、特定与信先へのリスク集積回避のため、与信先ごとのリミット管理を行っております。

流動性リスクについては、日々の資金繰り管理のほかに、巨大災害発生など、流動性リスク・シナリオ発現に伴う保険金支払いなどの資金流出額を予想し、それに対応できる流動性資産が十分に確保されるように管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。また、「4 デリバティブ取引関係」注記における「契約額等」は、デリバティブ取引における契約額または想定元本であり、当該金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスク量や信用リスク量を表すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含まれておりません((注)2参照)。

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

種 類	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預貯金	472,676	472,676	—
(2) 買現先勘定	77,998	77,998	—
(3) 買入金銭債権	11,383	11,383	—
(4) 金銭の信託	114,769	114,769	—
(5) 有価証券			
売買目的有価証券	252,492	252,492	—
満期保有目的の債券	3,536	3,492	△44
その他有価証券	4,771,286	4,771,286	—
(6) 貸付金	679,024		
貸倒引当金(※1)	△101		
	678,923	699,490	20,566
資産計	6,383,067	6,403,590	20,522
(1) 社債	133,560	143,573	10,013
負債計	133,560	143,573	10,013
デリバティブ取引(※2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	1,665	1,665	—
ヘッジ会計が適用されているもの	37,342	37,342	—
デリバティブ取引計	39,008	39,008	—

(※1) 貸付金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しております。

(※2) その他資産およびその他負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

種 類	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金及び預貯金	716,628	716,628	—
(2) 買現先勘定	54,999	54,999	—
(3) 買入金銭債権	11,718	11,718	—
(4) 金銭の信託	104,422	104,422	—
(5) 有価証券			
売買目的有価証券	608,479	608,479	—
満期保有目的の債券	2,070	2,044	△26
その他有価証券	5,180,809	5,180,809	—
(6) 貸付金	628,048		
貸倒引当金(※1)	△94		
	627,953	646,650	18,697
資産計	7,307,081	7,325,753	18,671
(1) 社債	424,991	435,911	10,919
(2) 債券貸借取引受入担保金	250,063	250,063	—
負債計	675,055	685,975	10,919
デリバティブ取引(※2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	9,553	9,553	—
ヘッジ会計が適用されているもの	15,684	15,684	—
デリバティブ取引計	25,238	25,238	—

(※1) 貸付金に対応する一般貸倒引当金および個別貸倒引当金を控除しております。

(※2) その他資産およびその他負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。
デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法

資産

(1) 現金及び預貯金

短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 買現先勘定

短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 買入金銭債権

取引先金融機関から提示された価格によっております。

(4) 金銭の信託

信託財産として運用されている預金等については、短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。公社債は取引所の価格、日本証券業協会の公表する価格および取引先金融機関等から提示された価格等によっており、株式は取引所の価格によっております。また、外国証券は取引所の価格等によっております。

(5) 有価証券

公社債は取引所の価格、日本証券業協会の公表する価格および取引先金融機関等から提示された価格等によっており、株式は取引所の価格によっております。また、外国証券は取引所の価格および取引先金融機関等から提示された価格によっております。

(6) 貸付金

貸付金の案件ごとに将来の回収予定キャッシュ・フローを、期間に対応したリスクフリーレートに信用リスクプレミアムと流動性プレミアムを付加した割引率により割り引いた金額を時価としております。また、破綻先、実質破綻先および破綻懸念先の債権等については、担保および保証による回収見込額等に基づいて貸倒見積高を算出しているため、時価は期末日における連結貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似していることから当該価額をもって時価とする方法によっております。

負債

(1) 社債

取引所の価格、日本証券業協会の公表する価格および情報ベンダーが提供する価格等によっております。

(2) 債券貸借取引受入担保金

短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

「4 デリバティブ取引関係」注記を参照ください。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであり、「(5) 有価証券」には含めておりません。
(単位：百万円)

区 分	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
株式	35,979	35,763
外国証券	21,321	23,174
その他の証券	7,976	10,404
合計	65,277	69,342

(※) 株式は非上場株式であり市場価格がないため、時価開示の対象としておりません。
外国証券は非上場株式および非上場株式等を主な投資対象とするものであり市場価格がないため、時価開示の対象としておりません。
その他の証券は不動産を主な投資対象とするものおよび非上場株式等を主な投資対象とするものであり市場価格がないため、時価開示の対象としておりません。

(注) 3. 金銭債権および満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
2015年度(2016年3月31日)

(単位：百万円)

種 類	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預貯金	469,209	3,447	—	—
買現先勘定	77,999	—	—	—
買入金銭債権	158	1,000	—	9,270
有価証券				
満期保有目的の債券				
外国証券	1,553	1,538	445	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
国債	85,145	244,364	274,552	431,666
地方債	1,900	2,580	100	4,600
社債	51,948	172,252	34,640	210,653
外国証券	83,094	424,349	458,682	252,065
その他の証券	293	13,802	2,696	374
貸付金(※)	230,378	269,537	123,041	55,484
合計	1,001,680	1,132,871	894,159	964,113

(※) 貸付金のうち、破綻先、実質破綻先および破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない366百万円は含めておりません。

2016年度(2017年3月31日)

(単位：百万円)

種 類	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預貯金	706,381	9,185	—	—
買現先勘定	54,999	—	—	—
買入金銭債権	2,845	—	—	7,018
有価証券				
満期保有目的の債券				
外国証券	674	983	412	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
国債	57,759	104,028	214,011	431,876
地方債	500	2,080	3,100	4,600
社債	44,520	144,269	32,140	268,561
外国証券	114,659	480,703	646,522	453,483
その他の証券	2,707	12,272	5,120	373
貸付金(※)	150,433	301,210	105,243	60,577
合計	1,135,480	1,054,733	1,006,551	1,226,490

(※) 貸付金のうち、破綻先、実質破綻先および破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めない392百万円、期間の定めのないもの10,000百万円は含めておりません。

業績データ

(注)4. 社債、長期借入金、リース債務およびその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

種類	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
社債	—	—	—	—	—	133,560
長期借入金	58	52	45	43	4,098	352
リース債務	1,737	684	473	287	84	—
合計	1,795	737	518	330	4,183	133,912

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

種類	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
社債	—	—	—	—	—	419,180
長期借入金	43	36	35	33	29	266
リース債務	1,046	918	688	169	57	0
債券貸借取引受入担保金	250,063	—	—	—	—	—
合計	251,153	955	723	203	86	419,446

2 有価証券関係

1. 売買目的有価証券

(単位:百万円)

	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	△1,628	1,457

2. 満期保有目的の債券

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

区分	種類	連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	外国証券	602	615	12
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	外国証券	2,933	2,876	△57
合計		3,536	3,492	△44

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

区分	種類	連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	外国証券	153	161	7
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	外国証券	1,916	1,883	△33
合計		2,070	2,044	△26

3. その他有価証券

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差 額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	公社債	1,739,054	1,572,369	166,684
	株式	1,338,445	457,988	880,457
	外国証券	1,221,353	1,075,271	146,082
	その他	42,495	37,836	4,658
	小計	4,341,349	3,143,466	1,197,882
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	公社債	2,918	2,951	△33
	株式	74,765	80,130	△5,364
	外国証券	337,313	352,970	△15,657
	その他	42,471	42,805	△333
	小計	457,469	478,858	△21,388
合計		4,798,819	3,622,324	1,176,494

(注) 1. 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表に含まれておりません。

2. 連結貸借対照表において現金及び預貯金として処理している譲渡性預金ならびに買入金銭債権として処理している貸付債権信託受益権を「その他」に含めて記載しております。

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差 額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	公社債	1,350,754	1,218,867	131,886
	株式	1,503,908	492,316	1,011,592
	外国証券	1,106,699	992,915	113,784
	その他	42,583	37,282	5,301
	小計	4,003,947	2,741,382	1,262,565
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	公社債	162,184	168,151	△5,966
	株式	16,208	17,174	△966
	外国証券	1,001,610	1,013,589	△11,978
	その他	21,292	21,412	△120
	小計	1,201,296	1,220,328	△19,032
合計		5,205,243	3,961,710	1,243,533

(注) 1. 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券は、上表に含まれておりません。

2. 連結貸借対照表において現金及び預貯金として処理している譲渡性預金ならびに買入金銭債権として処理している貸付債権信託受益権等を「その他」に含めて記載しております。

4. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日まで)

(単位:百万円)

種 類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
公社債	59,035	372	5
株式	76,978	50,949	189
外国証券	148,424	13,454	1,573
その他	0	1,227	0
合計	284,439	66,004	1,768

2016年度(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

(単位:百万円)

種 類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
公社債	263,622	6,831	4,294
株式	109,096	74,982	58
外国証券	250,025	2,081	8,786
その他	4,033	965	22
合計	626,778	84,861	13,162

5. 連結会計年度中に減損処理を行った有価証券

2015年度において、その他有価証券(時価を把握することが極めて困難と認められるものを除く。)について11,270百万円(うち、株式7,080百万円、外国証券1,235百万円、その他2,954百万円)、その他有価証券で時価を把握することが極めて困難と認められるものについて255百万円(すべて株式)減損処理を行っております。

2016年度において、その他有価証券(時価を把握することが極めて困難と認められるものを除く。)について745百万円(うち、株式527百万円、外国証券217百万円)、その他有価証券で時価を把握することが極めて困難と認められるものについて351百万円(うち、株式9百万円、外国証券341百万円)減損処理を行っております。

なお、当社および国内連結子会社は、有価証券の減損にあたっては、原則として、期末日の時価が取得原価に比べて30%以上下落したものを対象としております。

3 金銭の信託関係

1. 運用目的の金銭の信託

(単位:百万円)

	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	△1,754	△57

2. 満期保有目的の金銭の信託

該当事項はありません。

3. 運用目的、満期保有目的以外の金銭の信託

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

種 類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差 額
金銭の信託	108,919	109,865	△946

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

種 類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差 額
金銭の信託	83,767	80,395	3,371

4. 減損処理を行った金銭の信託

2015年度において、運用目的、満期保有目的以外の金銭の信託において、信託財産として運用されている有価証券(時価を把握することが極めて困難と認められるものを除く。)について1,187百万円減損処理を行っております。

2016年度において、運用目的、満期保有目的以外の金銭の信託において、信託財産として運用されている有価証券(時価を把握することが極めて困難と認められるものを除く。)について217百万円減損処理を行っております。

なお、当社および国内連結子会社は、当該有価証券の減損にあたっては、原則として、期末日の時価が取得原価に比べて30%以上下落したものを対象としております。

4 デリバティブ取引関係

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	35,207	—	1,162	1,162
	買建	26,658	—	△269	△269
	通貨オプション取引				
	売建	12,300	—	△7	159
	買建	12,000	—	775	539
合計				1,661	1,592

(注) 時価の算定方法

1. 為替予約取引
先物相場を使用しております。
2. 通貨オプション取引
取引先金融機関から提示された価格によっております。

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	52,079	—	△15	△15
	買建	39,853	—	△344	△344
	通貨オプション取引				
	売建	6,050	—	△0	89
	買建	5,600	—	73	△14
合計				△287	△285

(注) 時価の算定方法

1. 為替予約取引
先物相場および取引先金融機関から提示された価格によっております。
2. 通貨オプション取引
取引先金融機関から提示された価格によっております。

(2) 金利関連

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引	金利先物取引				
	売建	31,598	25,185	△76	△76
	買建	25,325	—	△17	△17
合計				△94	△94

(注) 時価の算定方法

主たる取引所における最終の価格によっております。

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引	金利先物取引				
	売建	2,636	—	7	7
	買建	2,649	—	△2	△2
市場取引以外の取引	金利オプション取引				
	売建	629	—	△3	0
	金利スワップ取引				
	受取変動・支払固定	12,592	943	33	33
合計				34	39

(注) 時価の算定方法

1. 金利先物取引
主たる取引所における最終の価格によっております。
2. 金利オプション取引
取引先金融機関から提示された価格によっております。
3. 金利スワップ取引
将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割り引いて算出した時価等によっております。

(3) 株式関連

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引	株価指数先物取引 売建	24,989	—	△16	△16
合計				△16	△16

(注) 時価の算定方法

主たる取引所における最終の価格によっております。

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引	株価指数先物取引 売建	20,014	—	△11	△11
合計				△11	△11

(注) 時価の算定方法

主たる取引所における最終の価格によっております。

(4) 債券関連

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引	債券先物取引 売建	12,229	—	36	36
	買建	59,084	—	△107	△107
	合計			△70	△70

(注) 時価の算定方法

主たる取引所における最終の価格によっております。

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引	債券先物取引 売建	10,725	—	10	10
	買建	8,067	—	△13	△13
	債券先物オプション取引 買建	1,434	—	0	△3
	市場取引以外の取引				
市場取引以外の取引	債券先物取引 売建	5,871	—	△5,906	△31
	買建	14,013	—	14,142	△53
合計				8,233	△90

(注) 時価の算定方法

- 債券先物取引
主たる取引所における最終の価格によっております。
- 債券先物オプション取引
主たる取引所における最終の価格によっております。
- 債券先物取引
主に情報ベンダーが提供する価格によっております。

(5) その他

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引以外の取引	天候デリバティブ取引				
	売建	2,053	162	△75	33
	地震デリバティブ取引				
	売建	9,172	10	△25	280
	買建	7,641	7,245	287	△418
合計				186	△104

(注) 時価の算定方法

1. 天候デリバティブ取引
契約期間、その他当該取引に係る契約を構成する要素を基礎として算定しております。
2. 地震デリバティブ取引
契約期間、その他当該取引に係る契約を構成する要素を基礎として算定しております。

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

区 分	種 類	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価	評価損益
市場取引	クレジットデリバティブ取引				
	売建	634	634	22	22
	天候デリバティブ取引				
	売建	314	—	△39	29
	買建	457	—	57	△43
市場取引以外の取引	クレジットデリバティブ取引				
	売建	179	81	△2	△2
	買建	139	139	8	8
	天候デリバティブ取引				
	売建	20,872	2,058	△2,820	1,323
	買建	12,961	1,204	4,409	△898
	地震デリバティブ取引				
	売建	10,004	160	△13	263
	買建	8,793	4,464	194	△464
	インダストリー・ロス・ ワランティ取引				
	売建	1,655	—	△21	151
	買建	2,329	—	117	△376
	ロス・ディベロップメント・ カバー取引				
売建	2,848	2,848	△328	△328	
合計				1,584	△315

(注) 時価の算定方法

1. クレジットデリバティブ取引
主に情報ベンダーが提供する価格によっております。
2. 天候デリバティブ取引
契約期間、その他当該取引に係る契約を構成する要素を基礎として算定しております。
3. 地震デリバティブ取引
契約期間、その他当該取引に係る契約を構成する要素を基礎として算定しております。
4. インダストリー・ロス・ワランティ取引
契約期間、その他当該取引に係る契約を構成する要素を基礎として算定しております。
5. ロス・ディベロップメント・カバー取引
契約期間、その他当該取引に係る契約を構成する要素を基礎として算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価
繰延ヘッジ	為替予約取引 売建	外貨建予定取引	39,732	—	1,217
時価ヘッジ	為替予約取引 売建	その他有価証券	550,021	—	22,388
	通貨スワップ取引	その他有価証券	2,980	2,980	356
為替予約等の振当処理	通貨スワップ取引	外貨建社債(負債)	133,560	133,560	(注2)
合計					23,962

(注) 1. 時価の算定方法

(1) 為替予約取引

先物相場を使用しております。

(2) 通貨スワップ取引

取引先金融機関から提示された価格によっております。

2. 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建社債(負債)と一体として処理されているため、その時価は、「1 金融商品関係」の社債の時価に含めて記載しております。

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価
時価ヘッジ	為替予約取引 売建	その他有価証券	486,260	—	4,056
	通貨スワップ取引	その他有価証券	2,980	—	520
為替予約等の振当処理	通貨スワップ取引	外貨建社債(負債)	133,560	133,560	(注2)
合計					4,577

(注) 1. 時価の算定方法

(1) 為替予約取引

先物相場を使用しております。

(2) 通貨スワップ取引

取引先金融機関から提示された価格によっております。

2. 為替予約等の振当処理によるものは、ヘッジ対象とされている外貨建社債(負債)と一体として処理されているため、その時価は、「1 金融商品関係」の社債の時価に含めて記載しております。

(2) 金利関連

2015年度(2016年3月31日)

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価
繰延ヘッジ	金利スワップ取引 受取固定・支払変動	保険負債	83,000	83,000	13,380
合計					13,380

(注) 時価の算定方法
将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割り引いて算出した時価によっております。

2016年度(2017年3月31日)

(単位:百万円)

ヘッジ会計の方法	種 類	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち1年超	時 価
繰延ヘッジ	金利スワップ取引 受取固定・支払変動	保険負債	83,000	83,000	11,106
合計					11,106

(注) 時価の算定方法
将来予想されるキャッシュ・フローを現在価値に割り引いて算出した時価によっております。